

災害防止研究所 #10会議 (2019.4.23 1617~1745) 議事録

○ 参加者

吉田明生 名取禎 佐々木宏 柏木白光 宮岡隆 山田裕介 江口亮 尾又ゆかり 杉山さとし 渡邊宏
土居輝彦 (モノ・マガジン編集ディレクター) 星野渉 (株式会社建設技術研究所・東京本社社会防災センター主任) 東谷淳 (おみくじ工房 Planning & Sales Department Executive Manager)

○ 場 所

ウッドオフィス外部会議室 東京都港区新橋5-20-1 ル・グ ラシエル BLDG5 号館 2F

○ 議 題

1 「防災グッズ大賞」の名称の商標登録について (吉田)

弁理士 (東京UIT 国際特許業務法人) に確認してもらったところ「防災グッズ大賞」の登録はされていない。イベント等として「防災製品大賞」が登録されているが、類型区分で差別化を図れば、大丈夫だとは思いますが、「製品=グッズ」だとされた場合は使えない可能性がある。その際は、改めて「災害防止グッズ大賞」等、類似した名称のないものを再申請することになる。審査には1年以上かかるので「防災グッズ大賞」の名称を「出願中」として使用することは可能とのことだった。

案としては、「防災グッズ大賞」で出願するか、再申請する必要の無い名称で出願するか、二案あるが、皆さんの意見を確認したい。

(一同) 「防災グッズ大賞」を使用したい。

2 防災グッズ大賞のHPの作成について(吉田)

山口さんに依頼をし、現在の業務予定通りに完成する。大賞のマークの作成もお願いしている。

3 「防災グッズ大賞」対象商品選定状況 (宮岡)

D/B に約1,000個のアイテムを入力し作成した。これにネット等での調査、モノマガジン・東急ハンズの推薦を加え、各審査に進む。細部の調整の業務予定を詰めている。

(吉田) 作成しているD/Bは、「防災グッズ大賞」としてと、将来の研究所活動の基盤としての、二つの意味がある。

(佐々木) 会社関連で協力を呼びかけ対象商品を推薦してもらうこともできる。差出の基準を示してもらえるとありがたい。

(土居) 何を基準にするのかは、その団体の見識が問われる。研究所として独自の審査基準が必要である。例えば、モノマガジンは、機能することを重視している。研究所は、防災用品の専門家として、実際に使用して審査することが必要ではないか。

(吉田) 将来は、そのようにする必要があると考えている。今回は、使用して審査するだけの時間の余裕がないが、研究所独自の審査基準を作成して、審査したい。

(土居) モノマガジンに掲載されていたものを対象とした場合は、モノマガジンを明記してもらって構わない。

(吉田) モノマガジンと東急ハンズからの推薦を得て、そこから研究所独自の審査基準で選定していきたい。

4 その他の調整状況等

(1) 強くなろうニッポンキャンペーン関連 (吉田)

佐藤 (慶) さんによる後援候補企業の調整は、サンヨー食品に5月20日、イオンは日程を調整中。

(2) 9月1日の阪神阪急百貨店イベント

8月31日の吉村作治さん講演は決定した他、9月1日は絵本作家の読み聞かせなどが出演予定に入っている。「防災の日イベント」を読売新聞大阪本社で取り上げてくれるよう調整してくれている。加えて、災害防止研究所の活動そのものを、記事としてもらうようお願いしている。多様な企業から集まり、異業種が協力して防災を啓発・普及する活動をしていること自体が、面白い記事になる。

(3) 東急ハンズとの調整 (杉山)

MD企画部ユニットリーダーの中村勲さんとMD企画グループチーフバイヤー大仲秀隆さんの紹介を頂いた。次回の会合には参加をしたいとのこと。こちらの窓口を一本化する必要がある。

(吉田) 宮岡事務局長の下でハンドリングできるよう、江口さんに主務をお願いしたい。

5 モノマガジンの編集状況 (土居) 企画書に基づき説明

(1) 概要

毎年9月1日恒例、「防災の日」に合わせた mono マガジンの防災特集別冊で、2019年度版の名称は「防災用品ファイル」、災害防止研究所との共同編集で、できれば毎年レギュラーでの出版へもっていききたい。

A5版、96ページ、カテゴリーは多様、キーワードは「都市型防災アイテム」。

防災用品は高度な進化を遂げており、すべての見直しが必要な時期に来ている。

(2) 主な企画

ア 1：代表理事の寄稿5ページで4,000~5,000字でお願いしたい。

イ 2：シーンで考える都市型防災用品 これについて皆さんの意見を頂きたい。

(佐々木) 災害の種別、地震と水害では必要な防災用品も大きく異なる。また、自宅での避難、避難所、

避難途上のロケーション別でも良いのでは。都市部と郊外でも異なるだろう。

(土居) 場所で決めるのは魅力的だがジャンル分けが難しい。

(吉田) 大都市イメージに、ロケーションを少し加味するくらいでは。

(東谷) 商品を提示して、読者にシーンをイメージして選択してもらうのも良いのでは。

(杉山) 時間的な流れで分ける方法もある。時間により選択するものが異なる。

(吉田) a～h の各シーンに説明文を付ければ、ストーリーができていく。

(土居) 各シーンは8ページ程度、商品は6～7アイテム、一つ一つを丁寧に紹介するのが良いと考えている。シーンとシーンとの間に、東急ハンズセレクトを入れ込みたい。

ウ 3：ライフハック的視点で考える防災用品とサバイバル・テクニック

固定観念を排して、普段使いのものからサバイバルに使用できるものにプラスして野菜ソムリエを紹介したい。

エ 防災グッズ大賞のご案内

見開きページで、研究所で作成してもらいたい。

(吉田) 最終的に20点に絞った大賞候補商品が、掲載に間に合うと思う。

(土居) マーク等を電子印鑑で作成すれば掲載可能。リストは60点の掲載も可能。4色フルカラー、700円。ムック形式、マガジンとブックの造語で、書店には半年おいてもらえる。掲載広告があれば紹介をお願いしたい。営業を派遣する。

(名取) お値段は。

(土居) 20～30万円位。

6 その他 (吉田)

(1) 阪急阪神百貨店イベント

会場準備・運営については、里さんの会社が普段から取引のあるスタッフにお願いできることになったので、安心してお任せできる。

イベント全体の経費は、企業による後援ではなく、ブース売りの案で考えてもらっている。

(2) ジャバラリーフレット

阪急電鉄さんに声を掛けてもらう予定

(3) 後援

阪急さんの了解を得て、広報スペースが確保できれば、自衛隊に依頼をしに行きたい。

(4) 認証規約 (吉田) 資料に基づき説明

(5) 認証ロゴマーク・シール

郵便出版社に依頼する予定。柏木白光さんがカレンダーの題字製作を依頼されている旧知の印刷会社。

(柏木) 社長に、認証制度の企画書を出して説明し、依頼できるよう調整する。

(6) 「防災グッズ大賞」業務手順の概要 (吉田) 資料に基づき説明

(土居) 推薦商品の洗い出しは、情報だけを提供で良いか。商品は難しい。

(吉田) HP のアドレスを提供してもらえば良い。

(杉山) 東急ハンズからは5月10日には間に合わないが。

(吉田) メールで調整し、可能な時期で対応をしてもらいたい。

(柏木) 賞状は手書きのほうが良い。担当するので早めに文章を頂きたい。賞状には研究所の印が必要になる。

(吉田) 賞状と認証証書の文章は尾又さんをお願いする。

(吉田) 協賛・協力会社として、ウッドオフィス、モノマガジン、東急ハンズ、阪急阪神百貨店の名前を出して、広報に力を入れていきたい。吉村作治先生の名前も宣伝になる。広報は名取さんにお任せをしたい。

(名取) TV系が中心なので、出版系を紹介してもらいたい。

(吉田) 読売新聞大阪本社は、里さんルートで調整可能だろう。

(土居) 研究所のフェイスブックはあるのか。

(吉田) まだ開設していない。媒体の組み合わせをよく考えてやっていきたい。

二次審査では、写真を撮影しておいて、それをメディアに使用してもらいたい。

(名取) 10日の洗い出しの要領は

(吉田) メールで、必要な項目とホームページのアドレスを送付し各自で確認をしてもらう。

(土居) メイドインジャパンには拘るか。

(吉田) 米軍や海外のサバイバル等の技術が最先端を行っているので外せない。将来、そういう特集を組む案はある。

(佐々木) 9月1日のイベントの中身が詰まって来れば、野菜ソムリエさんへの声の掛け方も決まってくる。

調整の結果イベントに大阪神社庁が協賛をしてくれるようになった。また、ブースが開く状況があれば企画を考えている。

○ 次回の会議 (定例会議)

5月28日 (火) 1600～

於：ウッドオフィス外部会議室 東京都港区新橋5-20-1 ル・グラシエル BLDG5 号館2F

以上